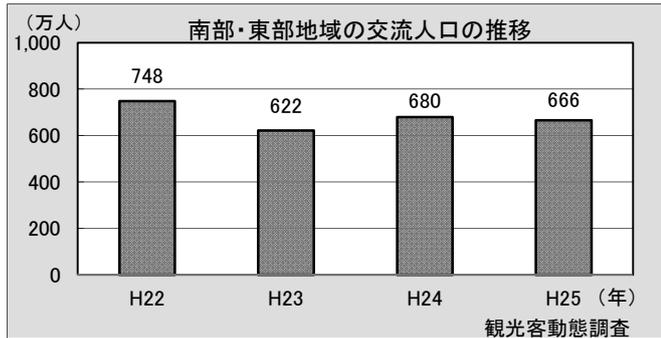


| | |
|-----------|---|
| 主担当部局(長)名 | 南部東部振興監 辻本 浩司 |
| 関係部局(長)名 | 総務部長 野村 政樹、危機管理監 長岡 雅美、地域振興部長 一松 旬、観光局長 福井 義尚、健康福祉部長 土井 敏多、医療政策部長 渡辺 顕一郎、くらし創造部長 中 幸司、景観・環境局長 中 幸司、産業・雇用振興部長 森田 康文、農林部長 福谷 健夫、県土マネジメント部長 加藤 恒太郎、まちづくり推進局長 金剛 一智、教育長 吉田 育弘 |

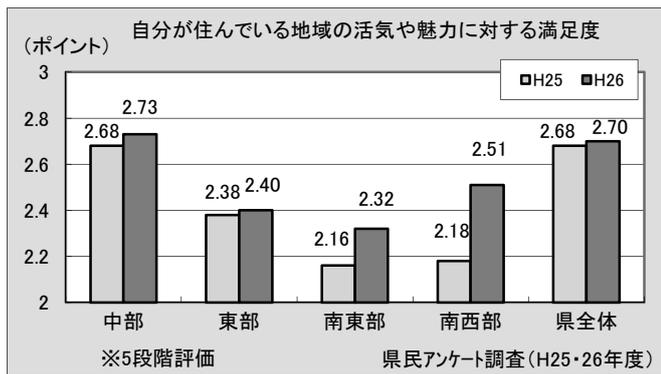
| | |
|------|-----------------|
| 重点課題 | IV 南部地域・東部地域の振興 |
|------|-----------------|

| | |
|------|---|
| 目指す姿 | 医療の充実や移動手段の確保などによる社会基盤の整備を基礎とし、地域の魅力の発見・創造・発信、通勤圏内での雇用機会の創出や農林業・スモールビジネス等の振興による就業の場の確保により、南部地域・東部地域を「住みたくなる、住み続けられる」地域にします。 |
|------|---|

1. 政策課題の進捗状況

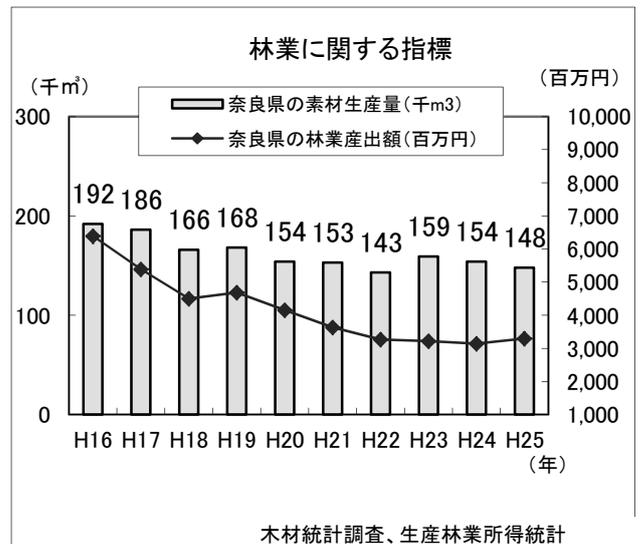
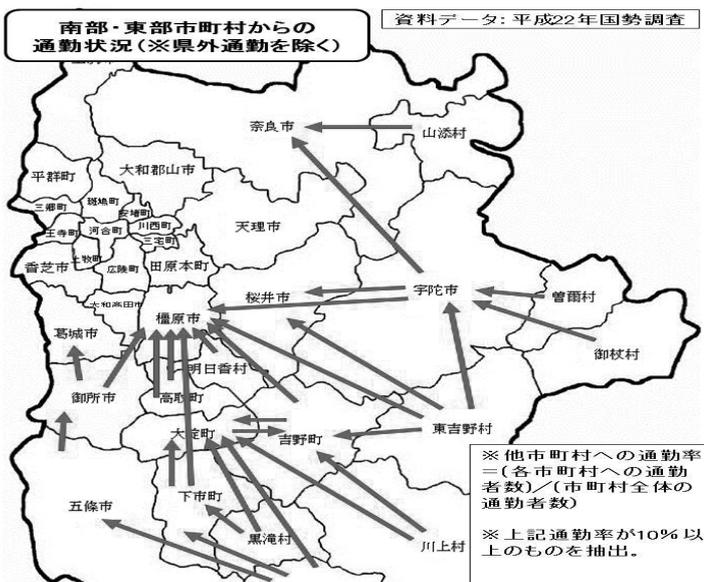


| | |
|----|--|
| 目標 | 南部地域・東部地域の交流人口(観光客数)800万人を目指します。(H24年 680万人) |
| 取組 | 観光情報の発信や各種プロモーションを実施しました。 |
| 成果 | 平成25年の南部・東部地域の交流人口(観光客数)は666万人を確保しました。 |



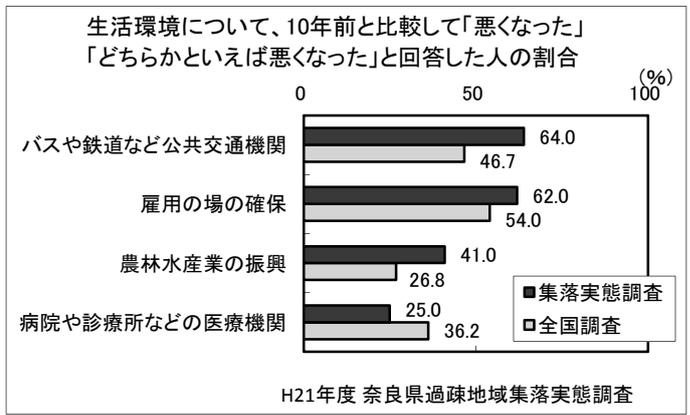
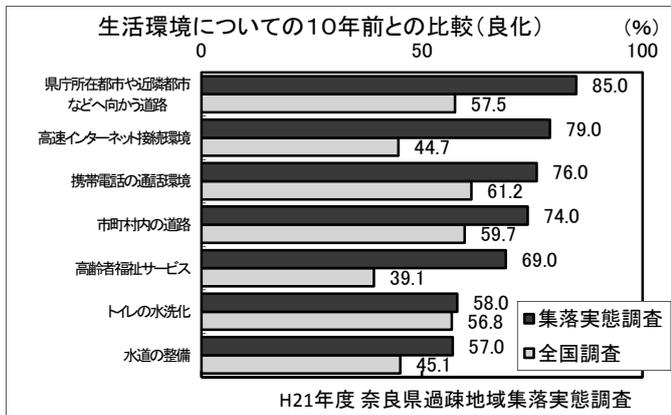
| | |
|----|--|
| 目標 | 自分の住んでいる地域の活気や魅力に対する満足度を高めます。(H25年度県民アンケート調査<5段階評価>南東部地域2.16、南西部地域2.18、東部地域2.38、県全体2.68) |
| 取組 | 医療の充実、若者の雇用の場の創出、農林業等地域産業の振興及び通院・バス交通等の生活維持対策を実施しました。 |
| 成果 | 全ての地域において満足度が向上しました。(H26年度県民アンケート調査<5段階評価>)中部2.73、東部2.40、南東部2.32、南西部2.51、県全体2.70) |

2. 現状分析



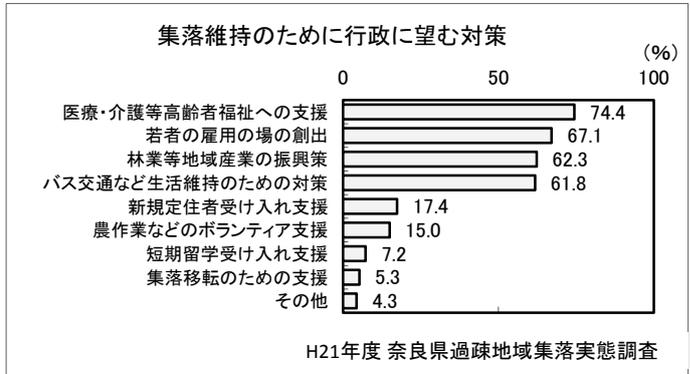
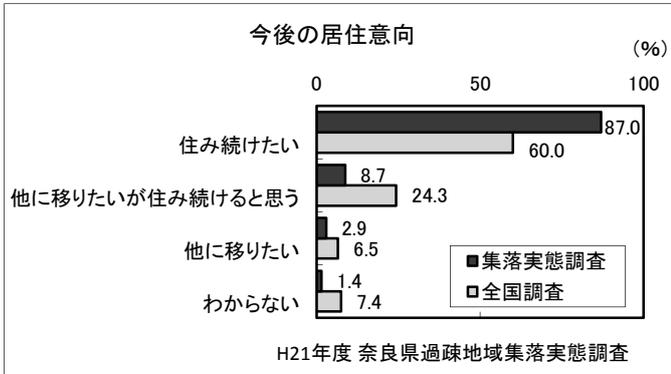
南部地域・東部地域では中和地域への通勤の割合が高くなっています。この地域の活性化のためには、中和地域における雇用の創出が重要な課題です。

かつて南部地域・東部地域の基幹産業であった林業は衰退傾向です。素材生産量も林業産出額も、ともに減少傾向です。



生活環境については10年前と比較して良化したと回答する割合が上記の項目において50%を超え、いずれも全国調査よりも高い割合となっています。中でも「県庁所在都市などへ向かう道路」、「高速インターネット接続環境」、「高齢者福祉サービス」等の項目について全国調査の割合を大幅に上回っています。

「バスや鉄道など公共交通機関」、「雇用の場の確保」について「悪くなった」または「どちらかといえば悪くなった」と回答する割合が50%を超え、これらの項目については全国調査結果よりも高い割合になっています。



奈良県の過疎地域に暮らす住民には、その地域に「住み続けたい」という意識が非常に強く、全国調査の結果を上回っています。

集落を維持していくための対策として、「医療・介護等高齢者福祉への支援」、「若者の雇用の場の創出」、「林業等地域産業の振興策」、「バス交通など生活維持のための対策」に高いニーズがあります。

| 奈良県の持っている強み | | 内部(内的要因) | | 奈良県の抱えている弱み | | | | | | | | | |
|--------------------|-------------------|------------------------|---|------------------------|---|----------------------------|----------------|-------------------|---------------|----------------|-------------|-------------------|-----------------|
| 1 豊かな自然環境、おいしい空気や水 | 2 豊かな森林資源、吉野材ブランド | 3 地域の住民の絆が強い | 4 世界遺産をはじめとする豊富な歴史・観光資源 (「紀伊山地の霊場と参詣道」H16年7月登録) (「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」H19年1月暫定リスト登録) | 5 京奈和自動車道御所IC~御所南ICが開通 | 6 情報通信基盤の充実 | 7 南部・東部の魅力浸透などによる観光入込客数の回復 | 8 産業用地の不足 | 9 人口減少と高齢化による活力低下 | 10 若者の就業の場の不足 | 11 農林業等地域産業の衰退 | 12 医師の確保が困難 | 13 路線バスの休廃止・減便の進行 | 14 日常生活サービスの脆弱化 |
| 奈良県への追い風 | | 外部(外的要因) | | 奈良県への向かい風 | | | | | | | | | |
| a 国の経済政策による景気回復傾向 | b 国による国土強靱化の推進 | c 「住みたい」、「住み続けたい」意識の高さ | d 多様なライフスタイル指向の高まり (ニーズが高いもの) ・医療・介護等高齢者福祉への支援 ・若者の雇用の場の創出 ・林業等地域産業の振興 ・バス交通など生活維持のための対策 | e 国による地方創生の動き | f 京奈和自動車道御所南IC~五條北ICの平成28年度供用見通しが国により公表 | g 人口減少、労働人口の減少 | h 企業の生産拠点の海外移転 | i 食品や木材の輸入品の増加 | | | | | |

3. 施策課題の進捗状況

戦略1 南部地域・東部地域の振興の方策を検討し実行します。

主担当課(長)名 南部東部振興課長 北村 辰治

| | |
|------|--|
| 戦略目標 | ▶南部振興計画及び東部振興計画の着実な実行により、南部地域・東部地域の振興と移住・定住の推進につなげます。 ▶地元の情報やニーズをきめ細やかに把握し、市町村・住民団体等と協働して課題の解決を目指します。 |
|------|--|

| 主な取組指標等 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 担当課名 |
|-----------------------------|--------|--------|--------|---------|
| 「南部振興計画」及び「東部振興計画」に基づく地域の振興 | | | | |
| 南部・東部振興プロジェクト検討事業件数(件) | 6 | 4 | 3 | 南部東部振興課 |
| 一町一村一まちづくり構想推進事業件数(累計)(件) | 5 | 9 | 12 | 南部東部振興課 |

これまでの成果

- ・南部・東部振興のより一層の推進及び業務の効率化を図るため、平成27年1月に南部東部振興課を奈良県橿原総合庁舎へ移転しました。
- ・これまでの「南部振興計画」及び「東部振興計画」と「復旧・復興計画」をあわせた新たな計画として、「南部振興基本計画」及び「東部振興基本計画」を策定しました。(H27年3月)

戦略2 地域の魅力の発見、創造、発信を行います。

主担当課(長)名 南部東部振興課長 北村 辰治

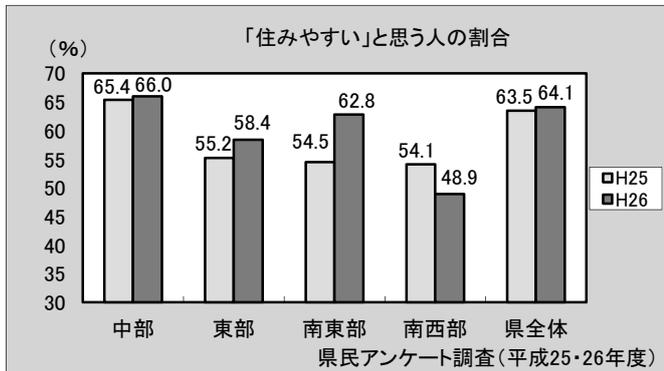
| | |
|------|---|
| 戦略目標 | ▶地域の魅力を発見あるいは創造し、多角的な情報発信などにより都市部との交流を進め、地域のにぎわいと活力を高めます。 |
|------|---|

| 主な取組指標等 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 担当課名 |
|---|---------|---------|---------|---------------|
| 観光の環境整備 | | | | |
| 広域的な自転車利用ネットワークの整備状況(%) | 23 | 66 | 78 | 道路環境課 |
| 「サイクリストにやさしい宿」認定宿数(総数) | 50 | 55 | 58 | 道路環境課 |
| 秋季休日における自転車周遊者数(台/日)(計測箇所:10カ所) | 5,580 | 5,054 | 5,715 | 道路環境課 |
| 農家民宿認定件数(累積)(件) | 21 | 24 | 25 | 移住・交流推進室 |
| イベントの開催 | | | | |
| うだ・アニマルパークへの年間入場者数(人) | 165,590 | 181,830 | 214,910 | うだ・アニマルパーク振興室 |
| 情報発信の充実 | | | | |
| WEBや雑誌スマートフォンを活用した南部・東部観光情報の発信件数(件) | 18 | 19 | 20 | 移住・交流推進室 |
| インターネットや雑誌、イベント等による情報発信件数(件)(「弘法大師の道」の魅力発掘) | 3 | 4 | 4 | 移住・交流推進室 |

これまでの成果

- ・「第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～」が平成26年11月に大淀町・川上村ほかで開催され、やまと海づくりフェスタ会場となった「JAならけんまほろばキッチン」には約1万8千人の来場者がありました。
- ・吉野山から高野山までを舞台にしたトレイルランニングレース「Kobo Trail 2014」を平成26年6月に開催しました。169人が参加し、このうち135人が完走しました。
- ・南部地域・東部地域の活性化を目指し、「なんゆう祭2014」を平成26年10月に五條市で開催し、約2万人の来場者がありました。
- ・空き家を改修し、カフェ・ゲストハウス等が完成しました。(9カ所)
- ・制度融資を活用して、簡易宿所(ゲストハウス)の増改築を行い、宿泊定員が約90名増加しました。(H22年～26年)

| | |
|------|---|
| 戦略目標 | ▶南部地域・東部地域で「住みたい」「住みやすい」と思う人の割合を増やします。(H25年度県民アンケート調査 南東部:54.5%、南西部:54.1%、東部:55.2%、県全体:63.5%) |
|------|---|



| | |
|----|---|
| 取組 | インフラ整備を含む社会生活基盤を整備しました。 |
| 成果 | 平成26年度県民アンケート調査で、「住みやすい」と思う人の割合は、中部・東部・南東部で上昇が見られましたが、南西部では低下しました。(中部:66.0%、東部:58.4%、南東部:62.8%、南西部:48.9%、県全体:64.1%) |

| 主な取組指標等 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 担当課名 |
|---|--------|--------|--------|-------------|
| 企業立地の促進 | | | | |
| 被災地域復興推進補助金の活用件数(件) | — | 1 | 0 | 企業立地推進課 |
| エリア毎の農業振興策の展開 | | | | |
| 「奈良の柿」販売額(百万円) | 3,208 | 3,762 | 3,665 | 農業水産振興課 |
| 県産材の利用拡大及び森林の生産能力の向上 | | | | |
| 県産材利用住宅への助成件数(件) | 103 | 52 | 70 | 奈良の木ブランド課 |
| 鳥獣害対策と野生獣の有効活用 | | | | |
| 野生鳥獣被害防止対策 ニホンジカの捕獲(頭) | 6,423 | 6,927 | 7,882 | 森林整備課 |
| へき地医療体制の充実 | | | | |
| 医師確保修学資金貸与者数(人) | 79 | 90 | 99 | 医師・看護師確保対策室 |
| 高齢者支援の充実 | | | | |
| 認知症サポーター養成講座の修了者数(人)[累計] | 2,557 | 3,210 | 4,317 | 地域包括ケア推進室 |
| 信頼性のある道路ネットワークの形成 | | | | |
| 「完了宣言箇所」の供用箇所数(南部地域・東部地域)(カ所) | — | — | 3 | 道路建設課 |
| 総合的な土砂災害対策の推進 | | | | |
| 先行的保全施設(避難所や要援護者関連施設)への土砂災害対策着手率(%) | 64 | 75 | 75 | 砂防・災害対策課 |
| 清流吉野川の保全 | | | | |
| 単独処理浄化槽数(吉野川流域)(基) ※合併処理浄化槽への切替または下水道接続により減らすことが目標 | 4,625 | 4,544 | 4,481 | 環境政策課 |
| 生活交通の確保 | | | | |
| 運行経費の助成を受けるバス系統数(県補助対象系統) | 30 | 30 | 26 | 地域交通課 |
| 過疎地域における通院バスの輸送人員(人) | 2,106 | 2,459 | 2,592 | 地域交通課 |

これまでの成果

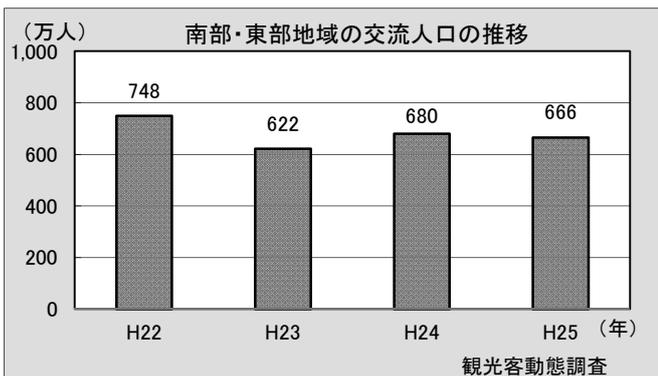
- ・五條市辻堂地区の避難指示・勧告が平成26年12月に解除されたことに伴い、紀伊半島大水害による避難指示・勧告が全て解除されました。
- ・紀伊半島大水害の被災地である五條市、野迫川村、十津川村で復興住宅全24戸が完成しました。(H26年7月)
- ・大淀町福神地区に新設する南奈良総合医療センター本館棟の基礎工事が竣工しました。(H27年3月)
- ・京奈和自動車道御所IC～御所南IC(専用部)が開通しました。(H27年3月)
- ・五條新宮道路(国道168号)阪本工区が国庫補助として新規事業化されました。
- ・持続可能な地域公共交通を確保するための取組体制として設置した「奈良県地域交通改善協議会」を6回開催し、協議対象となる中南部及び東部のバス路線について、ルートやダイヤの改善などを行い、関係者の合意のもと路線の今後のあり方について協議が完了したことを確認しました。

戦略4 南部地域・東部地域への移住を推進します。

主担当課(長)名 移住・交流推進室長 福野 博昭

戦略目標

▶移住・定住に関する情報発信を充実し、南部地域・東部地域の市町村への空き家バンク、ワンストップ窓口の設置などを推進することで受入体制を整備します。



取組

地域の魅力を活用した観光情報、移住・定住関連情報を発信しました。

成果

・南部地域・東部地域の交流人口(観光客数)については、平成24年は前年を上回りましたが、平成25年度は前年度を下回りました。
 ・平成26年度に南部地域・東部地域全19市町村にワンストップ窓口を設置しました。

| 主な取組指標等 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 担当課名 |
|--|--------|--------|--------|----------|
| 市町村での空き家バンク、ワンストップ窓口の設置推進 | | | | |
| 「空き家バンク」設置市町村数(市町村) | 10 | 12 | 12 | 移住・交流推進室 |
| ワンストップ窓口設置市町村数(市町村) | — | — | 19 | 移住・交流推進室 |
| 移住・二地域居住のための拠点整備 | | | | |
| 移住者「職」と「住」の拠点整備支援事業件数(件) (奥大和クリエイティブヴィレッジ構想に基づき移住者拠点施設を整備する市町村等に対し補助) | — | — | 2 | 移住・交流推進室 |
| ふるさと復興協力隊の設置及び活動支援 | | | | |
| ふるさと復興協力隊員の配置人数(人) | 17 | 20 | 21 | 南部東部振興課 |

これまでの成果

- ・移住者の職と住の拠点として下市町で整備を進めていた家具工房が平成26年12月に完成し、移住者5名を迎え制作活動を開始しました。
- ・移住セミナーを平成26年9月より3回開催し、のべ68人が参加しました。
- ・東吉野村において、空き家を改修し、シェアオフィスが完成しました。(H27年3月)

4. 平成28年度に向けた課題の明確化

| | | |
|--|--|---|
| <p><政策課題の進捗状況> ・平成25年の南部地域・東部地域の交流人口(観光客数)は666万人を確保しました。 ・地域の活気や魅力に関する満足度は、全ての地域において満足度が向上しました。</p> | <p><奈良県の持っている強み> 1 豊かな自然環境、おいしい空気や水 2 豊かな森林資源、吉野材ブランド 3 地域の住民の絆が強い 4 世界遺産をはじめとする豊富な歴史・観光資源 (「紀伊山地の霊場と参詣道」H16年7月登録) (「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」H19年1月暫定リスト登録) 5 京奈和自動車道御所IC～御所南ICが開通 6 情報通信基盤の充実 7 南部・東部の魅力浸透などによる観光入込客数の回復</p> | <p><奈良県の抱えている弱み> 8 産業用地の不足 9 人口減少と高齢化による活力低下 10 若者の就業の場の不足 11 農林業等地域産業の衰退 12 医師の確保が困難 13 路線バスの休廃止・減便の進行 14 日常生活サービスの脆弱化</p> |
| <p><施策課題の進捗状況> ・「住みやすい」と思う人の割合は、中部・東部・南東部で上昇が見られましたが、南西部では低下しました。 ・南部地域・東部地域の交流人口(観光客数)については、平成24年は前年を上回りましたが、平成25年度は前年度を下回りました。 ・平成26年度に南部地域・東部地域全19市町村にワンストップ窓口を設置しました。</p> | | |
| <p><奈良県への追い風> a 国の経済政策による景気回復傾向 b 国による国土強靱化の推進 c 「住みたい」、「住み続けたい」意識の高さ d 多様なライフスタイル指向の高まり(ニーズが高いもの) ・医療・介護等高齢者福祉への支援 ・若者の雇用の場の創出 ・林業等地域産業の振興 ・バス交通など生活維持のための対策 e 国による地方創生の動き f 京奈和自動車道御所南IC～五條北ICの平成28年度供用見通しが国により公表</p> | <p><<強みで追い風を活かす課題>> [重要課題]観光交流の促進(地域の魅力の発信)(1,4,5,6,7,c,e)</p> | <p><<弱みを踏まえ追い風を活かす課題>> [重要課題]移住の推進(9,10,11,c) [重要課題]医療・高齢者支援(12,13,14,c,d) ・教育の充実(9,c) ・紀伊半島アンカールート of 早期整備(8,14,b,c,f) ・バス交通の確保(13,c,d) ・住民が安心して暮らせる基盤整備(13,14,c,d)</p> |
| <p><奈良県への向かい風> g 人口減少、労働人口の減少 h 企業の生産拠点の海外移転 i 食品や木材の輸出入品の増加</p> | <p><<強みで向かい風を克服する課題>> [重要課題]地域資源の活用(地域の魅力の発見、創造)(1,2,3,4,7,g,i)</p> | <p><<弱みを踏まえ向かい風に備える課題>> [重要課題]企業立地の促進(8,g,h) [重要課題]農林業等地域産業の振興(11,g,i)</p> |

5. それぞれの課題についての今後の取組方針

| 強みで追い風を活かす課題 | 今後の取組方針 |
|----------------------------|---|
| 【重要課題】観光交流の促進(地域の魅力の発信) | <ul style="list-style-type: none"> ・南部東部地域活性化イベントを開催します。 ・旅行雑誌や旅行サイト等の多様な広報媒体を活用し、首都圏や関西圏等に向けた観光情報の発信を強化します。 ・地域資源を活かしたスポーツイベント等を開催します。 ・広域的なネットワークの形成等による自転車の利用を促進します。 |
| 弱みを踏まえ追い風を活かす課題 | 今後の取組方針 |
| 【重要課題】移住の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・市町村での取り組み(広報、イベント、ワンストップ窓口、空き家バンク)を支援します。 ・移住、二地域居住のための拠点整備を支援します。 ・移住者・二地域居住者のための起業や受入体制整備を支援します。 |
| 【重要課題】医療・高齢者支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等が地域で安心して住み続けることができるようにするため、医療・介護等が連携した地域包括ケアシステムの構築を推進します。 ・南和広域医療組合を設立し、救急医療を中心に担う病院(南奈良総合医療センター)と、療養期を中心に担う病院(吉野病院、五條病院)に再編整備し、安定的な医療提供体制を確立します。 |
| 教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・県立高校の特色化により、全国から南部地域・東部地域に生徒が集まる魅力ある高校づくりを進めます。 ・教員の指導力向上を図る研修の実施等により、へき地教育の充実を図ります。 |
| 紀伊半島アンカールートの早期整備 | 紀伊半島アンカールートの早期整備を進めます。 |
| バス交通の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・移動ニーズに応じた交通サービスの提供体制を構築します。 ・南部地域・東部地域のバス交通のあり方について、交通事業者、関係市町村などと協議を実施します。 |
| 住民が安心して暮らせる基盤整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・道路防災対策及び土砂災害対策を推進します。 ・災害時の安心・安全を確保します。(高齢者の避難支援等) |
| 強みで向かい風を克服する課題 | 今後の取組方針 |
| 【重要課題】地域資源の活用(地域の魅力の発見、創造) | <ul style="list-style-type: none"> ・「食」と「泊」を売り出すオーベルジュ等の整備を促進し、それらのネットワーク化を推進します。 ・奈良県植栽計画に基づき、南部地域・東部地域の自然環境や森林資源を生かした「庭」を整備します。 ・うだ・アニマルパークを拠点とした取組を推進します。 ・「吉野・高野・熊野の国」関係3県が連携した取組を推進します。 ・南部地域・東部地域の地形や地域ならではの自然資源・自然環境を活かした多様なスポーツイベントを実施します。 |
| 弱みを踏まえ向かい風に備える課題 | 今後の取組方針 |
| 【重要課題】企業立地の促進 | 京奈和自動車道御所IC周辺に新たな産業用地を造成するほか、五條北IC周辺で分譲中の工業団地、また郡山下ツ道ジャンクション供用開始により利便性がさらに高まってきた名阪国道周辺など、南部地域・東部地域への企業立地を促進します。 |
| 【重要課題】農林業等地域産業の振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・柿等の農産物等のブランド化・生産能力向上による流通販売の強化拡大を進めます。 ・A・B・C材ごとに受け入れる製材・加工施設の確保と、それぞれの流通体制の構築を図ります。 ・木質バイオマスエネルギーの利活用の拡大を図ります。 ・奈良県にゆかりの深い漢方について、生薬の生産拡大や関連する商品・サービスの創出などを総合的に推進します。 ・在宅ビジネスやテレワーク等を希望する未就業者を掘り起こし、セミナーの開催や相談窓口の設置など在宅での起業の支援を行います。 ・鳥獣被害を軽減し、捕獲野生獣を有効活用します。 |

6. 平成26年度評価において見直しを行った課題、取り組み

| 見直した課題 | 見直した取組方針、見直した内容 |
|--------|---|
| 移住の推進 | 今まで以上に移住を促進するため、南部地域・東部地域の全19市町村が協働して移住施策に取り組むための協議会を設置します。 |